



インターネットメールゲートウェイ

xGate 3.5.2/3.7 環境設定ガイド

2010 年 11 月 10 日 第 12 版

株式会社オレンジソフト

Orangesoft

變更履歷

[illegible]

目次

1.	はじめに	4
2.	ログイン	5
3.	メニュー画面	6
4.	管理パスワード変更(設定)	7
5.	基本設定(基本設定)	8
6.	アカウント基本設定(設定)	11
7.	ライセンスコードの登録(ライセンス管理)	12
8.	ライセンス情報の表示(ライセンス管理)	13
9.	共通設定(詳細設定)	14
10.	端末設定(詳細設定)	17
11.	特殊な設定(詳細設定)	18
12.	迷惑メールフィルタ(オプション設定)	20
13.	LDAP(オプション設定)	22
14.	OTP(ワンタイムパスワード)(オプション設定)	24
15.	グループ機能(オプション設定)	25
16.	Office 文書表示(オプション設定)	26
17.	アドレス帳(オプション設定)	27
18.	着信通知(オプション設定)	29
19.	アクセス制御設定(セキュリティ設定)	30
20.	端末認証設定(セキュリティ設定)	31

1. はじめに

このマニュアルでは、xGate のシステム設定を行うための環境設定ツールについて説明します。

※画面につきましては、予告なく変更する場合があります。何卒ご了承ください。

2. ログイン

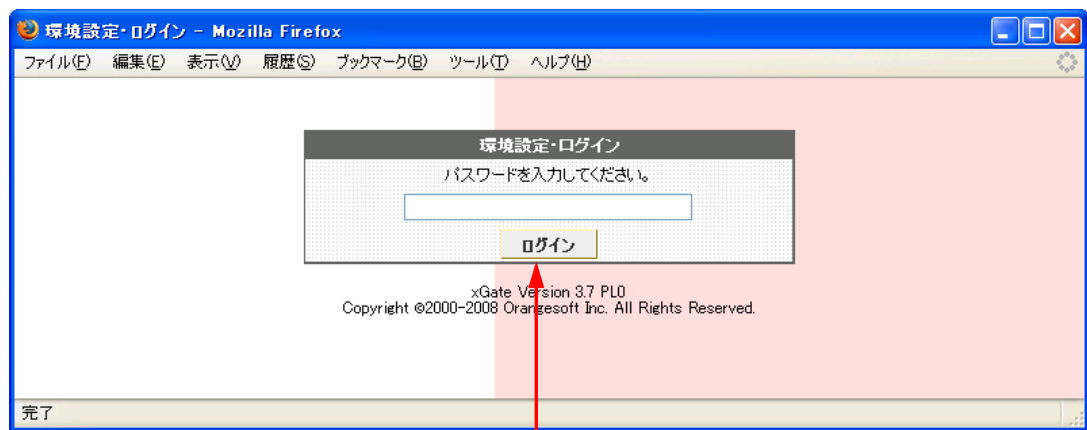
Web ブラウザ (Internet Explorer や Firefox など) で以下の URL を入力すると、xGate メニューが表示されます。
「環境設定」ボタンをクリックすると環境設定のログイン画面が表示されます。

URL <http://ホスト名/xgate/>

パスワードを入力してログインしてください。ログインが成功するとメニュー画面が表示されます。

なお、初めてログインするときは、別紙リリースノートをご参照ください。

- ログイン後、環境設定のパスワードは変更することをお勧めします。
- 2回目以降は、変更したパスワードを入力してログインしてください。



パスワードを入力して、「ログイン」ボタンをクリックすると、メニュー画面が表示

3. メニュー画面

メニュー画面は ConfigSetup のトップ画面です。設定したい項目をクリックするとそれぞれの設定画面に移動します。設定が完了したら「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウトしてください。

メニュー画面は、大きく「基本設定」「ライセンス管理」「詳細設定」「オプション設定」「セキュリティ設定」に設定内容が分類されています。画面の「基本設定」「ライセンス管理」「詳細設定」「オプション設定」「セキュリティ設定」をクリックすると、各分類の詳細設定項目が表示されますので、各項目をクリックして設定を行ってください。



ログイン直後の画面

4. 管理パスワード変更(設定)

環境設定にログインするときに入力するパスワードを変更することができます。**必ず、初期設定のパスワードは変更して使うようにしてください。**

- 新しいパスワード: 新しく設定するパスワードを入力してください。
- 新しいパスワード(確認用): 確認のため「新しいパスワード」と同じ文字列を再度入力してください。

入力が終わったら、「OK」ボタンをクリックして、変更を確定します。



5. 基本設定(基本設定)

xGate の基本的な動作設定を行います。

(1) バーチャルホスト名

xGate にアクセスする仮想ホストのホスト名を設定してください。

この設定は、負荷分散装置などを用いて、xGate を複数台に分散して配置する場合に設定します。そうでない場合は、設定する必要はありません。

(2) ホスト名

この xGate サーバーの実ホスト名を設定してください。

この設定は、負荷分散装置などを用いて、xGate を複数台に分散して配置する場合に設定します。そうでない場合は、設定する必要はありません。

(3) デフォルト IMAP(POP)メールサーバー

アカウント管理ツールでデフォルト値に設定される受信サーバーを設定します。

サーバー種別	任意	メールプロトコルを IMAP / IMAP(Courier-IMAP/IMail Server) / IMAP(Mirapoint/Cyrus IMAP) / POP / APOP の内から選択します。
ホスト名	任意	メールサーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。アカウント管理ツールで、デフォルト値としてメールサーバー名をセットして表示します。無指定の場合は、アカウント管理ツールでは空欄で表示します。
ポート番号	任意	メールサーバーの接続ポート番号を入力します。 通常 IMAP は 143 番、POP / APOP は 110 番を使用します。アカウント管理ツールで、デフォルト値としてポート番号をセットして表示します。無指定の場合は、アカウント管理ツールでは空欄で表示します。

(4) デフォルト SMTP サーバー

アカウント管理ツールでデフォルト値に設定される送信サーバーを設定します。

ホスト名	任意	SMTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。アカウント管理ツールで、デフォルト値として SMTP サーバー名をセットして表示します。無指定の場合は、アカウント管理ツールでは空欄で表示します。
ポート番号	任意	SMTP サーバーの接続ポート番号を入力します。 通常は 25 番を使用します。アカウント管理ツールで、デフォルト値として SMTP ポート番号をセットして表示します。無指定の場合は、アカウント管理ツールでは空欄で表示します。
FQDN	任意	SMTP サーバーの FQDN を入力します。アカウント管理ツールで、デフォルト値として FQDN をセットして表示します。無指定の場合は、アカウント管理ツールでは空欄で表示します。 ※メール送信時に、SMTP のエラーで、以下のようなメッセージが出た場合は、ドメイン名を入力します。 501 Invalid Domain Name 501 domain name defined 553 ...Domain part missing

(5) URL 通知

アカウント作成・更新時に送信する URL 通知メールの送信に用いる送信サーバーの設定を行います。

利用 SMTP サー	必須	SMTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
------------	----	----------------------------------

バー・ホスト名		
利用 SMTP サーバー・ポート番号	必須	SMTP サーバーの接続ポート番号を入力します。 通常は 25 番を使用します。
利用 SMTP サーバー・FQDN	任意	SMTP サーバーの FQDN を入力します。 ※メール送信時に、SMTP のエラーで、以下のようなメッセージが出た場合は、ドメイン名を入力します。 501 Invalid Domain Name 501 domain name defined 553 ...Domain part missing
通知メール送信者アドレス	任意	利用端末に URL 通知を行う際の送信者のメールアドレスを入力します。 無指定の場合は、「info@SMTP サーバー名」となります。
通知メールタイトル	任意	利用端末に URL 通知を行う際のメールの題名を入力します。 無指定の場合は、「xGate アカウント登録のお知らせ」となります。

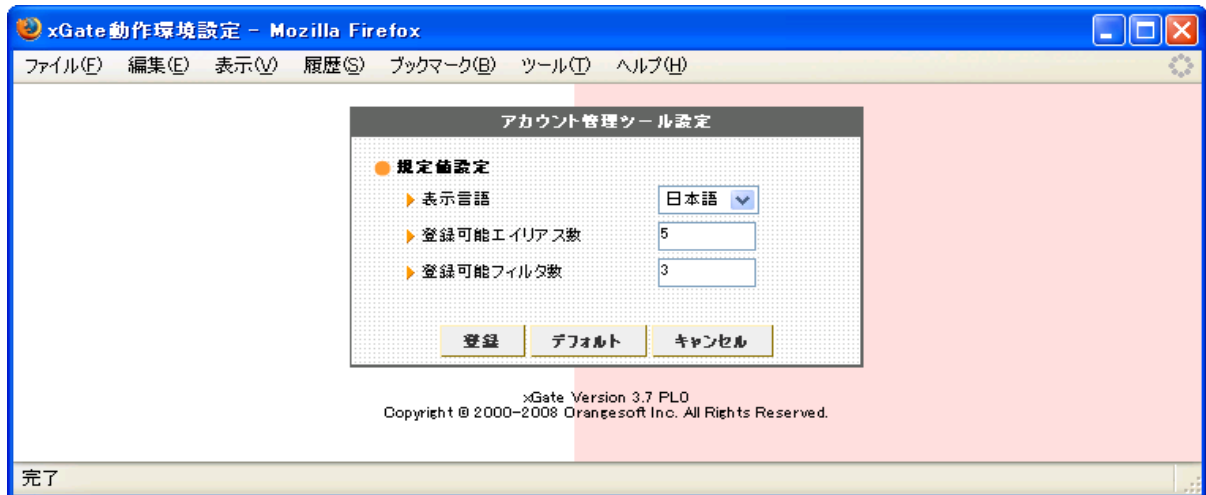
(6) ログ

xGate のログの設定を行います。

ファイルに記録する		ログをファイルに記録するかを設定します
ログファイル名		ログファイル名を設定します。フルパスで設定してください。この設定は「ファイルに記録する」がチェックされていないと有効になりません。
詳細なログを記録する		デバッグレベルのログを記録します。ログファイルに出力されるログが詳細になり、問題解決に役に立ちますが、反面ログファイルのサイズが大きくなってしまいます。
コンソールに出力する		ログを標準出力に出力します。

6. アカウント基本設定(設定)

アカウント登録での標準の設定を登録します。



(1) 表示言語

画面に表示される言語を「日本語」、「英語」のうちから選択します。

(2) 登録可能エイリアス数 (無指定:5)

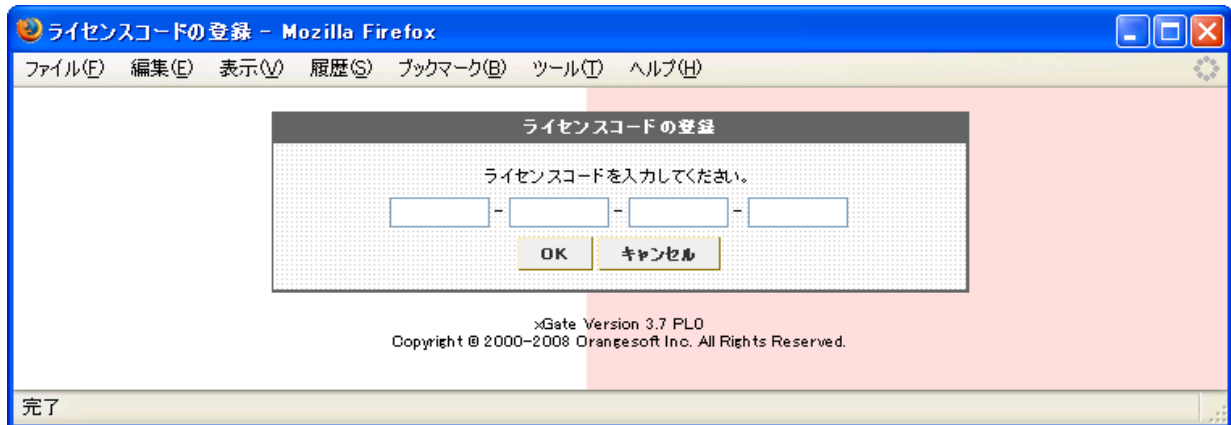
ユーザーが使用できる最大エイリアス数を入力します。

(3) 登録可能フィルタ数 (無指定:3)

ユーザーが使用できる最大フィルタ数を入力します。

7. ライセンスコードの登録(ライセンス管理)

「ライセンスコードの登録」では、お客様に発行された xGate のライセンスコードを登録することができます。ライセンスコードを登録しないと、xGate は動作しませんので、必ず設定してください。



- ライセンスコードは半角英数字で入力してください。
- xGate のライセンスコードは「ライセンス証」に記載されています。
- 現在の設定内容は、「ライセンス情報の表示」で確認できます。

8. ライセンス情報の表示(ライセンス管理)

ライセンス情報の表示では、登録したライセンスコードと登録可能なアカウント数を確認することができます。



9. 共通設定(詳細設定)

xGate の詳細の動作設定を行います。



項目名	必須項目	説明
セッション維持時間・携帯端末/PC	任意	<p>端末でのタイムアウトになるまでの時間です。携帯端末と PC 用の2種類の設定があります。</p> <p>xGate にログイン後、最後に操作した時点から、入力した時間内に新たな操作が無い場合、タイムアウトとなりログアウトします。頻繁に「タイムアウトが発生しました」とエラーになる場合はこの数字を大きくしてください。逆にあまり長く設定すると、利用端末以外の PC などからメールサーバーにアクセスする時に、利用端末が xGate を通じてログインしたままになる</p>

		<p>ため、メールサーバーに接続できないなどのトラブルが発生することがあるので注意してください。</p> <p>通常は 15 分程度を推奨します。</p>
1 ページのメッセージ表示数		<p>xGate より端末に一度に送信されるメッセージのバイト数を入力します。端末により表示できるバイト数は異なりますので、通常は無指定の 500 バイトを推奨します。この設定は標準の値で、「端末設定」で端末毎に個別に設定を行うことができます。</p> <p>下限値は携帯電話: 500、PDA: 4000 です。</p> <p>※設定が 500 バイトでも、次の行の長さが 20 バイトを越えている場合 480 バイトまでしか表示しないことがあります。</p> <p>※半角空白(“ ”)や記号の中には、HTML ソースの中にそのまま設定するとタグの一部とみなされるものがあり、xGate では該当する文字や記号が正しく表示するように自動的に変換します。その場合、文字数が 4~6 文字に増えるため、一見して表示文字数が少なくても、実際の HTML ソースとしては最大表示文字数に達していることになります。</p>
送信メールの本文文字数・携帯端末/PC		<p>メール送信時に本文に記述できる文字数を入力します。</p> <p>携帯電話から入力できる文字数には限界があり、さらにメールサーバー接続時間を越えるとタイムアウトが発生し、入力した文字列が無効になるため、通常は無指定の 800 文字を推奨します。</p>
ダウンロード可能な添付ファイルサイズ		<p>受信した添付ファイルのダウンロードできる最大のサイズを設定します。</p>
アップロード可能な添付ファイルサイズ		<p>送信する添付ファイルのアップロードできる最大のサイズを設定します。</p>
転送メールの上限サイズ		<p>転送時、添付できるメールの大きさを入力します。</p> <p>転送メールの受信に時間がかかり、携帯電話の場合は受信タイムアウトが発生する可能性があるため、通常は無指定の 50 キロバイトを推奨します。</p>
添付ファイルの表示		<p>「行う」を選択すると、添付ファイル名の表示及び各端末でサポートしている画像ファイルの表示が可能となります。添付ファイルは複数表示が可能です。</p>
Trash 用メールボックス名		<p>削除したメールを保持するメールボックスの名前を入力します。</p>
Outbox 用メールボックス名		<p>送信したメールを保持するメールボックスの名前を入力します。</p>
inbox の表示名		<p>inbox フォルダ(配信されたメールが最初に保存される場所)の表示名を</p>

		入力します。
Trash の表示名		Trash フォルダの表示名を入力します。
Outbox の表示名		Outbox フォルダの表示名を入力します。
表示言語		画面に表示される言語を「日本語」、「英語」のうちから選択します。 ●アカウント毎に設定を変更することもできます。
ログイン方法		xGate のログイン方法を「ホームページ形式」、「サインオン形式」、「簡単ログイン形式」のうちから選択します。 選択した方法が、利用端末への URL 通知の標準的な方法になります。
xGate V2.0 PL1 以前のキーコード 暗号化方式を使用する		xGate V2.0 PL2 からキーコード暗号化方式が変更されました。 xGate V2.0 PL1 以前のキーコード暗号化方式を使用する場合にチェックしてください。基本的には、使用しないでください。

10. 端末設定(詳細設定)



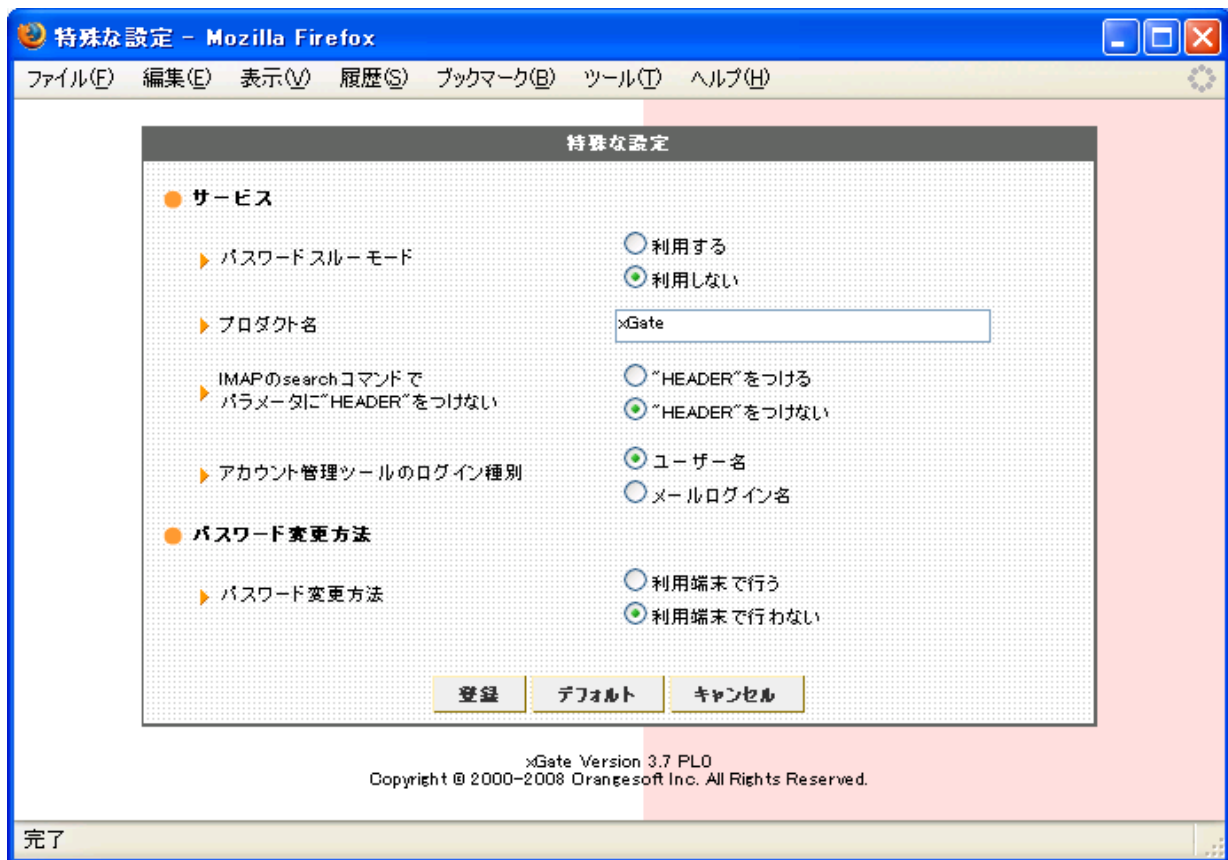
(1) SSL の利用

各端末で SSL を使うかを設定します。

(2) 1ページのメッセージ表示数

xGate より端末に一度に送信されるメッセージのバイト数を入力します。端末により表示できるバイト数は異なりますので、通常は無指定の 500 バイトを推奨します。この設定は標準の値で、「端末設定」で端末毎に個別に設定を行うことができます。

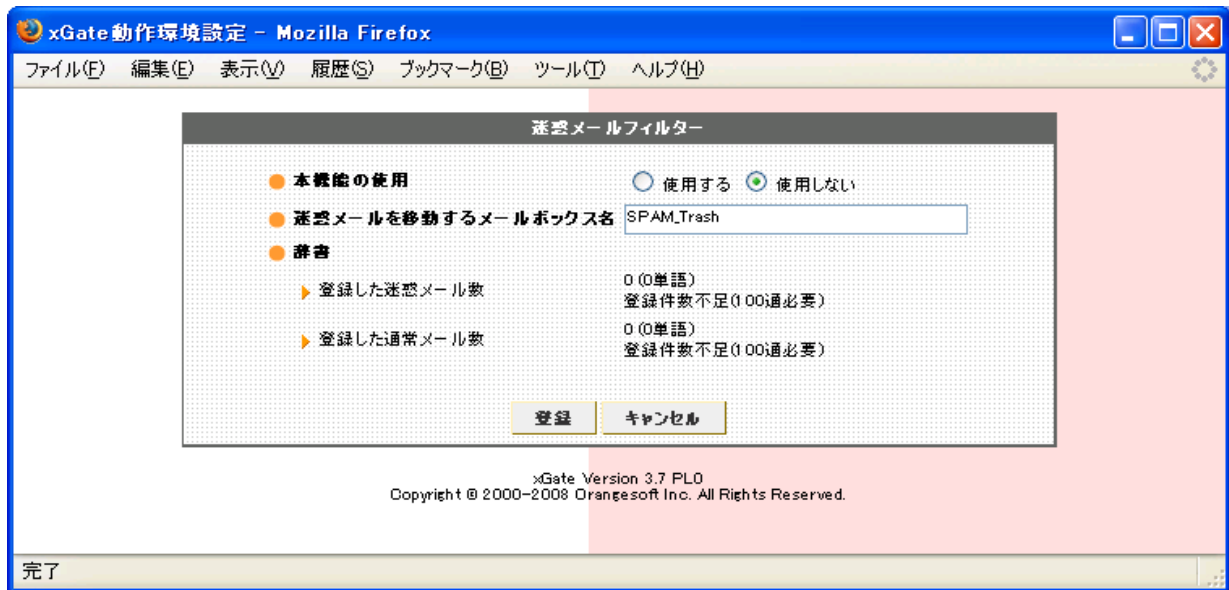
11. 特殊な設定(詳細設定)



項目名	必須項目	説明
パスワードスルーモード		xGate のログイン時に入力するパスワードを、メールサーバーのパスワードにすることができます(パスワードスルーモード)。
プロダクト名		画面に表示される「xGate」を変更したい場合に、表示する文字列を入力します。
IMAP の search コマンドでパラメータに“HEADER”をつけない		一部の IMAP メールサーバーでは、xGate の送出する IMAP コマンドを正常に解釈できないことがあります。一覧表示がされないときなどには、このチェックを ON にしてみてください。 IMAP サーバーへの search コマンドのパラメータに“HEADER”をつけない場合にチェックします。(設定の際にはメールサーバー管理者にご確認ください)
アカウント管理ツールのログイン種別		アカウント管理ツールにログインする際に入力する情報を、「ユーザー名」、「メールログイン名」のうちから選択します。

パスワード変更方法		ユーザーが利用端末でメールのパスワードやキーコードを変更する場合にチェックします。
-----------	--	---

12. 迷惑メールフィルタ(オプション設定)



■迷惑メールフィルタの概要

- 迷惑メールフィルタは、表示するメールボックス内の迷惑メールを検出し、検出した迷惑メールを迷惑メール保存用メールボックス(デフォルト名"SPAM_Trash")に自動的に移動させる機能です。
- 迷惑メールフィルタは、メール内のテキストとヘッダをベイズ理論に基づいて統計的に解析することで、迷惑メールかどうかの判定を行います。

■辞書について

- 迷惑メールフィルタ機能は、解析のために迷惑メール単語辞書と、非迷惑メール単語辞書を必要とします。辞書はお客様に登録していただく必要があります。
- 辞書は xGate 全体で共有します。
- 辞書の学習を行うことが可能なのは管理者権限を持ったアカウントのみです。
- 迷惑メール単語辞書、非迷惑メール単語辞書を 100 通以上学習されていないときは「学習不足」として、フィルタ機能は動作しません。
- 辞書が十分に学習されないと誤認識になる可能性がありますので、十分学習してから一般ユーザーには使用させるようにしてください。
- 辞書は xGate によって自動的に整理されます。一定のサイズ以上になったり、使用頻度が低い単語は削除されます。
- 辞書は xGate のインストールディレクトリの以下のファイルです。
 - WEB-INF/conf/spam.dic
 - WEB-INF/conf/ham.dic

■利用方法

- ・ 環境設定 (ConfigSetup) の「基本設定」の「迷惑メールフィルタを使用する」を「使用する」にします。
- ・ アカウントの設定で「迷惑メールフィルタを使用する」をチェックします。
- ・ **{管理者のみ}** 辞書の学習を行うには、PC 用の xGate のメール一覧画面の「迷惑メール登録」「通常メール登録」を使用します。

■注意

- ・ 迷惑メールフィルタがチェックするメールは未読のメールだけです。

項目名	必須項目	説明
本機能の使用		迷惑メールフィルタ機能を使用する場合は「使用する」にチェックをして、以下の項目を設定してください。
迷惑メールを移動するメールボックス名		検出した迷惑メールを移動するメールボックス名を設定します。デフォルトは"SPAM_Trash"です。
登録した迷惑メール数		学習させた迷惑メールの数と単語の数を表示します。
登録した通常メール数		学習させた非迷惑メールの数と単語の数を表示します。

13. LDAP(オプション設定)

完了

項目名	必須項目	説明
本機能の使用		LDAP オプションを使用する場合は「使用する」にチェックをして、以下の項目を設定してください。
LDAP サーバー URL		アカウント情報を登録する LDAP サーバーの URL を入力します。 例: ldap://ldap.example.co.jp:389
検索ルート DN		アカウント情報を登録するルート DN を入力します。
属性テーブルファイル名		属性名のマッピング用テーブルファイルを絶対パスで入力します。この設定は参照のみです。
登録情報テーブルファイル名		属性名のマッピング用テーブルファイルを絶対パスで表示します。この設定は参照のみです。
登録用 RDN		アカウント情報を登録する際の RDN を入力します。
登録する値		アカウント情報を登録する際のエントリー情報を「ログイン名」、「フルネーム」、「ユーザー名」、「メールアドレス」から選択します。
エントリーの削除を行う		アカウント情報を削除する際、LDAP のエントリー自体を削除する場合は「行う」を選択します。エントリーを他のシステムと共有している場合は削

		除しないでください。
管理者 DN		xGate が LDAP にアクセスするときの DN を設定します。
パスワード		上の DN に対応するパスワードを設定します。

14. OTP(ワンタイムパスワード)(オプション設定)

xGate は、ワンタイムパスワード(OTP)による認証をサポートしています。OTP を使った認証を用いる場合は、OTP オプションを設定してください。

OTP(ワンタイムパスワード)機能

● 本機能の使用 ☒ 使用する ☐ 使用しない

● 認証サーバー設定

▶ サーバー・ホスト情報

No	サーバー名	ポート番号	秘密鍵
1	adf	11	****
2			
3			
4			
5			

▶ OTPの長さ

▶ OTP認証なしのログインを許可する ☒ 許可する ☐ 許可しない

登録 デフォルト キャンセル

xGate Version 3.7 PL0
Copyright © 2000-2008 Orangesoft Inc. All Rights Reserved.

完了

項目名	必須項目	説明
本機能の使用		OTP オプションを使用する場合は「使用する」にチェックをして、以下の項目を設定してください。
サーバー・ホスト情報		OTP 認証を行うサーバー情報(ホスト名、ポート番号、秘密鍵)を入力します。サーバーは複数台登録することができます。通常は数字の小さいサーバーにアクセスしますが、サーバーとの通信に失敗したときは、順番に他のサーバーにアクセスします。
OTP の長さ		OTP の長さを入力します。 ※認証サーバーの仕様に関連するため、異常な値を設定すると、OTP の認証に失敗します。
OTP 認証なしのログインを許可する		OTP 認証を行わずに直接 xGate にログインすることを許可する場合には「許可する」を選択します。

15. グループ機能(オプション設定)

グループオプションを使うと、xGate のユーザー管理をグループ単位に分割して管理することができます。部門間、ドメイン間で管理を分割したい場合はご利用ください。



項目名	必須項目	説明
本機能の使用	○	グループオプションを使用する場合は「使用する」にチェックをして、以下の項目を設定してください。
グループ情報登録先	○	グループ設定情報を格納する先を設定します。LDAP オプションを有効にしている場合は、グループオプションも必ず LDAP にしてください。
ファイル名		グループ情報を格納しているファイルのパスを表示します。これは参照のみできます。
LDAP サーバー URL	○	LDAP サーバーの URL を設定します。
検索ルート DN	○	グループ情報を格納する LDAP の DN を設定します。
登録用 RDN	○	グループ情報を登録する際の RDN を設定します。

16. Office 文書表示(オプション設定)

xGate は、受信メール内の添付された Microsoft Office の文書内のテキストを抽出して表示する機能があります。この機能を有効にするには、Office 文書オプションを有効にしてください。



項目名	必須項目	説明
本機能の使用	○	Office 文書オプションを使用する場合は「使用する」にチェックをして、以下の項目を設定してください。
MIME タイプ登録 ファイル名		Office 文書オプションの処理対象となる添付ファイルの MIME タイプを登録したファイル名を表示します。これは参照のみできます。MIME タイプを追加する場合は、テキストエディタなどで編集してください。
変換ファイルサイズ	○	処理する添付ファイルの最大の大きさを入力します。 大きなファイルを変換する場合は、携帯電話での受信タイムアウトが発生する可能性があるため、通常は無指定の 300 キロバイトを推奨します。

17. アドレス帳(オプション設定)

xGate はユーザーが個別に持っている個人アドレス帳と、LDAP の検索機能を用いた共有アドレス帳の2種類のアドレス帳を持っています。このオプションでは、アドレス帳の設定を行います。

個人アドレス帳

- 最大登録数(帯指定:200)
- 登録先
 - ☐ ローカルファイル
 - ☒ LDAP
- LDAPサーバーURL
- 検索ルートDN
- 管理者DN
- パスワード
- ユーザー登録情報
 - 登録用FQDN
 - 登録情報テーブルファイル名
- アドレス登録情報
 - 属性テーブルファイル名
 - 登録用FQDN
 - 登録情報テーブルファイル名

共有アドレス帳

- 本機能の使用
 - ☒ 使用する
 - ☐ 使用しない
- LDAPサーバーURL
- 検索ルートDN
- 検索結果表示数(帯指定:35)
- 検索属性名(名前)
- 検索属性名(メールアドレス)

登録 デフォルト キャンセル

xGate Version 3.7 PL0
Copyright © 2000-2008 Orangesoft Inc. All Rights Reserved.

個人アドレス帳		
項目名	必須項目	説明
最大登録数		1アカウントで登録できるアドレスの数を入力します。
登録先		登録先を、「ローカルファイル」、「LDAP」から選択します。

LDAP サーバー URL		アドレス帳を登録する LDAP サーバーの URL を入力します。
検索ルート DN		アドレス帳のエントリーを保存する LDAP のルート DN を入力します。
管理者 DN		xGate が LDAP サーバーにアクセスするときの、DN を設定します。
パスワード		LDAP サーバーのパスワードを設定します。
共有アドレス帳		
項目名	必須項目	説明
本サービスの利用	○	共有アドレス帳を利用する場合は「利用する」にチェックします。
LDAP サーバー URL		アドレスを検索する LDAP サーバーの URL を入力します。
検索ルート DN		アドレスを検索する際のルート DN を入力します。
検索結果表示数		検索結果として表示するアドレスの数を入力します。
検索属性名(名前)		検索時に比較する「名前」が格納されている属性を設定します。
検索属性名(メールアドレス)		検索時に比較する「メールアドレス」が格納されている属性名を入力します。

※LDAP オプションで使用する LDAP サーバーとアドレス帳オプションで使用する LDAP サーバーは別のサーバーを用いてもかまいません。

18. 着信通知(オプション設定)

メールの着信をユーザーに通知することができます。着信通知機能は xGate が定期的にメールサーバーにメールの問い合わせを行うことで実現しています。そのため、頻繁に行うと、メールサーバーの負荷が増大しますので、ユーザー数が多い環境では推奨しません。



項目名	必須項目	説明
着信通知機能の使用	○	着信通知オプションを使用する場合は「使用する」にチェックをします。
送信メールファイル名		新着メールの通数を知らせるメールの雛型のファイル名を絶対パスで表示します。この設定は表示だけです。
動作周期	○	新着確認を行う周期を入力します。

19. アクセス制御設定(セキュリティ設定)

各端末ごとにアクセス制限をかけることができます。

アクセス許可	種別	アドレス情報
<input type="radio"/> 許可	動作環境設定	
<input type="radio"/> 許可	アカウント管理	
<input type="radio"/> 許可	au(EzWeb,WML)	
<input type="radio"/> 許可	iモード	
<input type="radio"/> 許可	Jスカイ	
<input type="radio"/> 許可	PDA	
<input type="radio"/> 許可	PC	

登録 キャンセル

xGate Version 3.7 PLO
Copyright © 2000-2008 Orangesoft Inc. All Rights Reserved.

完了

項目名	必須項目	説明
アクセス許可	<input type="radio"/>	アクセスを許可する場合にチェックします。チェックしないとその端末からのアクセスは全て遮断されます。
アドレス情報		アクセスを許可する IP アドレス情報を設定します。 ■入力例: 動作環境設定 192.168.0. アカウント管理 192.168.0. PC 192.168.0.

20. 端末認証設定(セキュリティ設定)

xGate は、au ではサブスクライブ ID、i モードでは製造番号を使って端末認証を行うことができます。この画面では端末認証を行うか行わないかを設定することができます。

端末認証を行わない場合はチェックします。

なお、i モードは 503i、211i シリーズ以降の機種が端末認証の対象となります。

i モードの 503i、211i シリーズ以降の機種で端末認証を行う場合、ホームページ形式でのログインはできません。

